

病弱の神童は医者を目指した

朝雲流れて 金色に照り

戸田中央医科グループ創設者
中村隆俊の半生

【第1話】

戸田中央医科グループ(TMG)は中村隆俊氏(89)が1962(昭和37)年、戸田町(現戸田市)に戸田中央病院を創設して以来、埼玉県を中心に関東一円に28病院、6介護老人保健施設など計114カ所の関連事業所を保有する巨大医療グループに成長した。中村氏は昨年、戸田市の医療・介護・保健等の分野で多大な貢献をしたことから同市名誉市民第1号として顕彰され、このほど、優れた経営手腕と地域貢献が認められて県から渋沢栄一賞を授与された。今夏、グループが創立55周年を迎える中村氏の、地域医療にかけた半生をたどる。

中村隆俊は、27(昭和2)年強く元気な兄弟だったが、隆俊10月25日、北海道瀬棚郡瀬棚町は病弱で月に一度は熱を出し学で、中村末吉とヨシノとの間に、校を休んでいた。それもあつて3人の姉と1人の兄に次ぐ5番勉強はよくする子どもだった。目の子として生まれた。名前は、北松山尋常高等小学校では、い良く似ていた姉の俊子の一字をつも試験は満点で成績がトップもらつて付けられた。その後、だったので、神童と言われてい隆俊の後に男の子が生まれ、男、子も3兄弟になった。兄は哲夫、弟は秀夫。のちに周囲から「中村3兄弟」と言われるようになる。

実家は、中村商店という雑穀商を営んでいた。父は、小樽商業高校を4年で中退し家業を継いだ。北海道で有数の雑穀商で、暮らし向きは楽だった。

瀬棚町は、北海道道南の渡島半島中央部の日本海に面した港町で、後志利別川の河口で奥尻島への玄関口。町名の由来は、アイヌ語の「セタルペシユペナイ」(犬が泳ぎ渡る川)が略されたセタナイから来ていると言われている。

兄も弟も身体は丈夫で相撲が



渋沢栄一賞を受賞した中村隆俊会長(右から2人目)と上田清司知事(同3人目)ら12月、さいたま市大宮区のソニックシティ

北海道の港町に生まれる

その小学校で、能代毅という先生に出会った。能代先生は情熱的な教育者で、人を育てるということに心血を注いでいた。病弱だった隆俊のことを将来大物になると言つて励ましてくれた。隆俊は後に生まれた息子に、能代先生の名をもらい毅と命名した。能代先生のような立派な人物になつてもらいたいという思いを込めたのである。

あるとき、隆俊は学校で勉強中に高熱を出し倒れてしまった。学校医の平医院に運び込まれた。そのとき、病弱の自分を嘆き、思い余つて「大人になるまで生きられますか」と聞いてしまった。すると平義博先生から、母親の言うとおりに栄養のあるものを食べなさいと指導された。そうすれば、人並みに長生きできると太鼓判を押してくれた。そして、「医者になつてみるよ」とも言われたのである。平先生は、医者はずいの人を助けることができる尊い仕事だと説いた。まだ漠としたものだったが、「医者になる」という目標が、このときできたのである。それ以来、隆俊は勉強にも一層励むことができた。

このころで、平先生に言われたものだから、母親は毎日弟の秀夫に、近くのコイの養殖所にコイを求めに行かせ、隆俊にコイの生き血を飲ませてくれた。隆俊は食事の好き嫌いをなくし苦手を克服することによって、普通の身体になつていった。家族の愛と能代先生、平先生の指導のおかげで今日の自分があるのだと、隆俊は思っている。

(敬称略)